

藪中三十二著「英語の教科書を丸暗記」読売新聞 2009年5月22日朝刊を読む

英語の教科書を丸暗記

1. 外交官の武器は英語だ。
 2. 中学 1 年の時、教科書を丸暗記したら英語力が伸びた。「声を出して教科書を丸暗記すれば、塾に行かなくても国際的に通用する英語がしゃべれる」と断言する。
 3. 高校では、ESS(英会話部)で英語劇に取り組んだ。練習にはあまり参加しなかったが、英語に親しみ、外国に興味を持つきっかけになった。
 4. 外交官を志したのは大阪大学 3 年生の時。友人に誘われて約 1 か月間、寺にこもって試験勉強に励んだ。
 5. 合格後に大学を中退したが、「何も知らずに」受験したため、合格したのは、幹部候補の試験ではなかった。入省後に上司の助言もあり、試験を受け直す回り道も経験した。
 6. 人生で一番勉強したのは、外務省から米コーネル大に留学した 24 ~ 25 歳の 2 年間だと言う。分厚い英語の本を毎週読まされ、「英語で夢を見るようになった」と振り返る。
 7. 外務省では、金大中事件や日米貿易摩擦、北朝鮮による日本人拉致問題など歴史に残る事件を担当した。激しい交渉の中で、常に心がけたのは、「どんな相手でも真摯に向き合うこと。そして、日本のためになるんだという確信」。正しいと思えば上司との衝突もいとわなかった。
 8. いい結果を出したのに批判を受けたこともある。「交渉ごとでは、すべての人が喝采することはない」と肝に銘じている。
- * 1948 年 1 月、大阪府生まれ。69 年外務省入省。シカゴ総領事、アジア大洋州局長などを経て現職。

[コメント]

現在、外務次官をなさっている藪中三十二(やぶなかみとし)氏の英語の勉強方法は、「声を出して英語の教科書を丸暗記」すること。高校の ESS で英語劇に取り組むことも役立つ。大いに参考にしたい。

- 2009 年 5 月 23 日林明夫記 -